



新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひ申し上げます

皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

年頭にあたりまして、財団理事、職員、子どもたちに代わりまして、皆様のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。

昨年は当財団にとり波乱の一年間でありましたが、皆様に日々激励され、貧困家庭の子どもたち一人一人がよりよい未来をつかむための手助けができました。教育奨学金を受けている高校生は、自分で決めた進路に向かい日々勉学に励んでいます。消防ボランティア隊員への職業訓練のひとつで、スラム地区の幼稚園で使用する遊具製作も進んでいます。また、当財団の幼稚園が、タイにおけるモンテッソリー教育のモデル教育機関に認定されました。地域の衛生環境の改善や、高齢者問題などにも積極的に取り組んでいます。

今年度もこれまで以上に努力してまいり所存でございます。皆様には、昨年同様ご指導・ご協力賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ドゥアン・プラティープ財団理事長

プラティープ・ウンソンタム秦

プラティープ幼稚園 モンテッソリー教育研修センターに抜擢 「生き直しの学校」で男子寮竣工式

プラティープ財団では約30年間、スラム地区の子どもに対する開発教育を支援活動の一環として続けています。それはスラムの貧困家庭で生まれたとしても、等しく教育を受ける権利があるからです。



このなか、当財団が運営する幼稚園（プラティープ幼稚園）では3年前からモンテッソリー教育の指導法を取り入れています。これにより、園児の知能や社会性などの発育状況が好転しました。こうした実績から、当財団幼稚園が国際モンテッソリー協会からタイ国のモンテッソリー教育指導研修センターに選ばれることになりました。

昨年11月22日から25日にかけて、テレビ大阪が財団の活動取材した際、エルセラーン1%クラブを代表して岩見浩史・常務取締役が研修センター開所式に出席されました。エルセラーン1%クラブからは、モンテッソリー教育事業や「生き直しの学校」カンチャナブリ校男子寮建設、スラム地区の幼稚園・保育園開発など様々な事業で支援をいただいております。

現在、モンテッソリー教育に基づく指導は、スラム地区にある各幼児センター約20カ所の子ども（2歳半～6歳）約2500人を対象に行っています。研修センター開所式の後、岩見常務と取材班はカンチャナブリ県に移動し、「生き直しの学校」男子寮および職業センターの竣工式にも出席されました。エルセラーン1%クラブの方々には、数々の事業を支援していただき、心より感謝申し上げます。



なお、その時の様子と当財団の活動が『石橋勝のボランティア21』の最終回で放映されました。

ミンポーン施設長 募金キャンペーンのため訪日 大阪・神戸などで講演も

昨年10月30日から11月9日まで「生き直しの学校」カンチャナブリ校のミンポーン施設長がトラック購入資金の募金キャンペーンのため訪日しました。これは、大阪の「生き直しの学校を支援する会」の皆様にご招かれたもので、大阪や神戸などで講演および視察訪問も行いました。

財団設立25周年の記念事業として「生き直しの学校」カンチャナブリ校ではアブラヤシ植林活動を始めましたが、昨年5月から同事業が本格化。収穫したアブラヤシの実を搾油工場に出荷することになりました。

さらに、2010年度からは月に6トン以上の収穫が予想されることから、現在使用している小型運搬車に代わり、中型トラックを購入することを計画しています。

子どもたちの明るい未来のため、トラック購入資金募金キャンペーンにご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。



ウボンラット妃 スラム地区の模範的青年を表彰 障害と闘う女子が特別賞

「人は生まれる所を選ぶことはできないが、成功のために歩むべき人生は選ぶことができる」との言葉を実践している若者がいます。

様々な社会問題と闘わなければならない劣悪な環境である「スラム」で生まれ育ちながら、その境遇に屈することなく、目標を持ち、地域社会にも貢献している若者9人が模範的青年として先日、表彰されました。

この賞はウボンラット王女により、昨年から実施されているもので、第2回表彰式が昨年11月22日、タイ国証券取引所のチャニサー副所長を主賓とし、行政関係者や地域住民など約800人が出席して行われました。

受賞対象となるのは、教育開発部門、道德部門、社会奉仕部門の3分野で模範的な活動をしている青少年が選ばれます。今回はさらに、スラム地区以外で活動しているタナーリー・フンピンノパーブさん（通称・ヌイさん）が特別賞を受けました。障害を持って生まれた彼女は、両親が他界した後も障害と闘いながら教育を受け続け、大学を卒業。今では立派に自活しています。

また、貧困家庭に生まれたプラゴープ・サンプラディットさん（通称・バウさん）は幼くして両親を失くしたため、「生き直しの学校」チュンポーン校に入所しました。彼女は10歳の時から熱心に学び続け、今年2月、ラジャパット・カンチャナブリ大学を卒業。現在はカンチャナブリ校の教職員としてケーキづくり、芸術制作、タイ舞踊など多岐にわたる技術指導に関わっています。他の若者たちも苦境にありながら精一杯努力しています。当財団では、今後もこうした模範的な青年たちを表彰し、激励していきます。



薬物撲滅運動強化 プラティープ財団が集会主催 スクムパン都知事も参加

タイ政府は数年前、違法薬物一掃キャンペーンを展開。スラム地区でもこれを受け、薬物撲滅運動を行ってきました。しかし、昨今の政情不安と経済危機などの影響を受け、再び薬物が蔓延し始め、密売者と常用者が急速に増加しています。

薬物は様々な犯罪の元凶ともなっており、住民たちの安全な暮らをも奪っています。

違法薬物（特に覚せい剤）はスラムの各地区で労働者や若者が常用しています。世間では「クロントイ・スラム＝薬物汚染エリア」と決め付けていますが、残念ながら地域内で薬物が蔓延しているのは事実なのです。

こうしたなか、薬物撲滅運動を長年実施している当財団では昨年11月29日、地域住民が結集し、『薬物撲滅運動の強化』をスローガンとする集会を主催しました。

この日の集会では、スクムパン・バンコク都知事を主賓に招き、港湾警察署長、行政関係者、30地区の住民委員長、さらに住民約500人が参加しました。参加者は地域社会の薬物撲滅運動を強化していくことで合意。薬物撲滅キャンペーンの重要性・必要性を声高く訴えました。



在タイ・スイス大使 スラム地区の幼稚園を視察 消防隊の活動にも関心

昨年11月25日、在タイ・スイス大使館のクリスティン・スクラナ・バーゲナー大使が当財団を訪問されました。バーゲナー大使は当財団の幼稚園がモンテッソリー教育の指導法を取り入れていることに特に関心を持たれ、プラティープ理事長とともに幼稚園を視察されました。

バーゲナー大使は、当財団消防隊のボランティア隊員が幼稚園で使用する遊具を製作している様子やスラム地区の住民たちの生活も見学されました。



教育里親事業部 隔週土曜日活動の反省会実施 「1年間の活動で何を学んだか？」

急激なタイ社会の変化は、子どもや青少年の成長にも大きな影響を及ぼしています。特に、スラムの子どもは劣悪な環境下で、子育て方法知らない保護者や親が生きるために必死に働いていかなければならない現状の犠牲となっています。

こうして、やがて彼らは乱暴な性格になり、薬物を常用するなど非行に走るのです。

プラティープ財団の教育里親事業部では財団設立から30年余り、幼稚園児から大学生まで年間2500人に奨学金を支給しています。さらに、劣悪なスラム環境のなかでも、向学心を忘れず、モノを大切にすることを習慣をもたせるなど、常に彼らを励ましています。

今年度の隔週土曜日活動は25回実施しました。毎回100～120人が参加。年間では総勢3000人に及んでいます。12月12日には1年の活動を振り返る反省会を実施。奨学生のほか、保護者グループのリーダーら20人が集まりました。ここで、参加者に、出席優等賞、優秀リーダー賞、社会奉仕活動に励む賞など、13の賞を授与しました。

授与式の後、奨学生たちは「1年間の活動で何を学んだか？」とのテーマで意見交換を行ったほか、レクリエーションなどを楽しみました。

豊中ロータリークラブほか
タイの教育施設を支援
給食用キッチン、コンピューター、中古自転車など寄贈

国際ロータリー財団より支援金を得て、タイ国内の学校の教育活動を支援する「マッチンググラント」事業は、当財団を調整機関として10年程前から豊中ロータリークラブがタイ国のロータリークラブと協力して行っています。

昨年、豊中ロータリークラブはプラナコン・ロータリークラブと共にロブリー県（タイ中部）のサタヤサイ校にタイ伝統楽器・現代楽器、給食用キッチン、コンピューター機器、中古自転車を寄贈しました。サタヤサイ校は、アットオン博士の尊敬する「サイババ」の教育理念により設立。子どもたちは道徳心と知能をともに育む教育を受けています。

11月19日に行われた贈呈式には、豊中ロータリークラブの代表9名、プラティープ理事長、プラナコン・ロータリークラブの代表15名が出席。アージュン校長と教職員、子どもたちの歓迎を受けていました。

当財団では、ロータリアンの方々がタイ国内の教育施設を支援してくださることに大変感謝しています。



財団職員スワンニー・ワットヌーさん
「児童権利保護親善大使賞」を受賞
アピシット首相より盾



1988年から国連総会では加盟国における児童の権利問題について討議されるようになり、子どもたちの居住環境や教育、児童擁護などを含む児童の権利が採択されました。

タイでは、児童福祉相談所やNGO団体など19機関からなる「児童委員会」が設置され、児童の権利向上を話し合う大会が毎年開催されることになりました。この大会は、子どもたちが直面している問題を取り上げ、関係機関の代表者らが意見を交換し合う場所となっています。

プラティープ財団は、児童委員会設立当初からメンバーとして参加しており、数人の職員が講師役を担当しています。児童委員会ではまた、献身的な活動を行っている人を称える「児童権利保護親善大使賞」（政治部門・NGO部門・報道部門・宗教部門・公務員部門の5部門）を2002年に立ち上げました。

2009年度は、30年余り児童問題に取り組んでいる当財団教育部門事業総責任者のスワンニー・ワットヌーさんが児童権利保護親善大使賞（NGO部門）を受賞。11月20日に国会議事堂で行われた授賞式では、彼女を含め各部門の受賞者総勢14名がアピシット首相より盾を授与されました。

ドゥアン・プラティープ財団
The Duang Prateep Foundation
Lock6, Art-Narong Road, Klong Toey
Bangkok 10110 Thailand
Tel : 001-66-(0)-2249-3553,(0)-2249-4880
Fax : 001-66-(0)-2249-5254
E-mail : dpffound@ksc.th.com
ホームページ : <http://jp.dpf.or.th>
銀行口座 : 三井住友銀行バンコク支店
口座名 : The Duang Prateep Foundation
口座番号 : 2 0 4 1 1 5 9 4 2 1

* 送金の際はご住所、お名前、ご送金の目的等を当財団国際部までご連絡賜りますようお願い申し上げます。

To:

『エイズであっても治療はできる！』
チャトチャック公園で集会
コンドーム100%使用呼びかけ



タイ国内のエイズ患者（感染後、発症した人）の累計ですが、昨年10月31日現在で35万8200人となっています。

そのうち、9万5983人がすでに死亡していますが、以前と比較すると、エイズで死亡する確率は減少しています。各自治体やNGO団体がエイズ・キャンペーンを通して積極的な啓蒙活動を行っているほか、数種類の治療薬に保険が適用されるようになったことがその背景にはあります。さらに、家族や地域社会との共生が可能となりつつあることも、患者の治療意欲を高めることになっています。

エイズ患者ですが、肉体労働者、性産業従事者のほか、近年では年少者が目立っており、感染経路の大半はコンドームを使用しない性交渉です。近年では、薬物注射の回し打ちによる感染は少数派となっています。

当財団では、20数年前に「エイズ予防対策プロジェクト」を立ち上げ、スラム地区のHIV感染者やエイズ患者の治療はもとより、青年グループ、主婦グループ、性産業従事者、バイクタクシー運転手などを対象に啓蒙活動を行ってきました。

さらに、昨年は保健省のグローバルファンドから活動資金が提供され、当財団がエイズ関係の活動を行うNGO団体ネットワークの調整機関として、12～24歳の青少年たちを対象とした啓蒙活動のほか、バンコクおよび中部14県でエイズ予防キャンペーン活動を推進しました。

昨年11月22日、当財団では、チャトチャック公園でNGO団体10団体と共に、『エイズであっても治療はできる！』とのスローガンの下、集会を実施しました。同集会では、マリニー・バンコク副都知事、プラティープ理事長、保健所長、チャトチャック区副区長などが参加。コンドームの100%使用を呼びかけるとともに、『エイズであっても治療はできる！』と訴えました。

